縮小社会研究会 in 岡山　報告

「縮小社会と生命倫理」

下記の講演と議論が活発に行われた。生命倫理は科学技術の発達、資源と環境の有限性によって、常に新しい視点で考える必要がある。縮小社会も基本は、次の世代への責任という倫理ではないかということが再認識された。

時：2016 年 4 月 23 日、午後 1 時～午後 5 時
所：岡山大学　文・法・経済学部講義棟　11 番　講義室
参加：１５名

講演１．13：00-13：45　「縮小社会の必然性」　松久寛　（縮小社会研究会代表理事）

世界は経済成長を善としている。しかし、資源と環境の制約の下で、それは真であろうか。指数関数的成長の持続は弱肉強食から破滅に至る。可採化石燃料は 100 年分といわれているが、たとえ年率 2%の成長でも、それは 54 年で枯渇する。しかし、毎年 1%ずつ縮小すると残存量は永遠に 100 年分になり、それ以上に縮小すると残存年数は増加する。子孫が生き延びるためには、縮小しかない。縮小を志向することによって、社会のシステムから価値観までが変貌し、それによって質的に豊かな社会を創出することができる。縮小社会の姿と変遷の過程について説明する。

講演２．13：55-14：40　「縮小社会と生命倫理学」　小川正嗣（放送大学大学院）

縮小社会研究と生命倫理学には、実は様々な共通点があります。どちらも本質的に、人間や生命一般の在り方を問うからです。いくつかの共通点を示し、縮小社会研究と生命倫理学の橋渡しの一助としたく思います。

講演 3．14：50-16：20　「優生学的人間改造」　粟屋剛（岡山商科大学教授、元岡山大学教授）

縮小社会の提案を尻目に、人類は優生学的人間改造の時代に突入しつつある。この優生学的人間改造は現時点でのあらゆるテクノロジーの集約点である。総決算と言ってもよい。もちろん、この優生学的人間改造は文明のダイナミズムに整合的に位置づけられる。縮小社会論の視点からこの「優生学的人間改造」現象がどう評価されるのか、とても興味がある。専門家からいろいろとご教示いただければ大変ありがたい。

総合討論　16：30-17：00

一般社団法人 縮小社会研究会
〒606-8227　京都市左京区田中里ノ前町 21　石川ビル 305
e-mail: jimukyoku@shukusho.org　　HP: http://shukusho.org/

筍堀り in 香川　報告

時：2016 年 4 月 24 日 9：00-
所：香川県三豊市山本町神田
参加：8 名

２３日の岡山大学での講演会のあと、７名が車に分乗して、琴平のとら丸旅館に着きました。夕食は近くの居酒屋さん、そのあと旅館での懇談に花が咲きました。２４日はさわやかな晴天になりました。前夜の雨で土もやわらかく、２時間ほどで、筍はコンテナー９杯も収穫しました。昼は青野さんの奥さん手作りの筍ご飯と筍天ぷら弁当でした。お土産にダンボール箱一杯の筍を持って帰りました。

とら丸旅館

筍堀り風景